

笠岡・北木島の旧小学校校舎活用

神戸の中学生が研修

島民、活性化に期待



旧北木小の教室で勉強に励む須磨学園中学生

児童数の減少から4年前に廃校になった笠岡市北木島の旧北木小校舎を使って、神戸市の中学校が夏期研修を行っている。旧校舎は一部が公民館と診療所に使われているが、島民以外の利用は廃校以来初。有効な活用策を模索していた笠岡市や島民は「研修受け入れを積極的に進めたい」と、島の新たな活性化策として期待を寄せている。

北木島を訪れているのは私立須磨学園中二年生約百四十人。十九日に島に渡り、二十三日まで、午前中は旧校舎で勉強、午後には野外活動を行い、校舎隣の笠岡諸島開発総合センターに宿泊。

十九、二十日には島の伝統産業「採石業」の石切り場見学のほか、伝統行事「流し雛」(笠岡市重要無形民俗文化財)や、地元漁師の船に乗って底引き網漁を体験。踊りや合奏で北木中学生とも交流した。

須磨学園中の竹田匡宏君(三)は「初めての体験ばかりで新鮮」、長谷川聡子さん(三)は「自然がいっぱいとても楽しい」と話す。

同中は今年六月、夏期研修の候補地として、海の近くで大勢が勉強できる施設がある場所をインターネットで検索。北木島に廃校になった小学校があることを知り、笠岡市に旧校舎が利用できるか打診。二〇〇一年三月に旧北木小が廃校となったことから、施設の活用策を検討していた市と島民は、漁業や伝統行事、海洋レジャー体験などの野外活動メニューを提案。食事の準備も島民が協力を申し出た。

島民は二十二日、夕食交流会を開き、生徒たちと交流する予定。食事の

準備を手伝っている奥野千代子さん(七)は「若い人が大勢訪れ、島が活気づいた」と喜ぶ。笠岡市は「今回の研修受け入れを機に、今後各方面に研修などでの利用を働き掛けていきたい」と話している。